

兵高教組

確定速報7号

2010年10月28日 調査情報12号

兵庫県高等学校教職員組合調査部

TEL : 078-341-6745
FAX : 078-351-3185
URL : <http://www.hyogo-kokyoso.com>
mail : honb@hyogo-kokyoso.com

元気で、安心・安全な 学校づくりにつながる交渉を！



第1回賃金確定交渉 (10月27日)

県教委との賃金確定交渉が、10月27日より始まりました。今年度の勧告は昨年に引き続き給料表・一時金共に引き下げで、2年連続の大幅賃下げ勧告となっています。その上に、県の「行革」により、現在給料の5%カットが行われています。これ以上の賃下げは、教職員の士気低下を招き、ひいては子どもたちの教育条件、兵庫の未来に悪影響を及ぼします。交渉団は、教職員の思いをしっかりと受け止めるよう、県教委に強く要請しました。

「行革」で教職員と子どもの元気を奪うな

冒頭のあいさつで津川委員長は、「新『行革』プランの目的は、『元気で安心・安全な兵庫への飛躍』とプラン自身に書かれてある。しかし『行革』によって学校は、予算が削られ、統廃合が画策され、教職員の賃金が削減されて、非正規化・民間委託が進んでいる。その結果病気休職者が急増し、また定年ま

で10年近くを残して退職せざるを得ない状況。この交渉で兵庫の教育条件を真摯に見直し、子ども達と教職員が共に元気で安心安全に学び、働き、生活できる方向に転換していくことが求められている。子ども達の間らしい成長を支える責務を果たすことが、我々と県教委の喜びのはずだ」と述べ、交渉を突りあるものにしていくよう呼びかけました。

交渉団の訴え

「行革」カットを止め、生活改善に繋がる賃金改善を県の財政再建で職員に賃下げを協力していただく次長が言ったが、痛みを押しつけられた県民の批判を和らげるためのスケープゴートに我々は使われている。

もらってもいない給与で算定された公民較差を解消するために住居手当を引き下げるとするのは全く理不尽。国に官舎が多く、県では持ち家が多いことを考えれば、引き下げ自体がおかしい。

現給保障額を減額しないこと

給与構造改革に伴う現給保障額は最低限の保障で、給与表の額が保障額を超えたときに現給保障がなくなるという性格のものであり、引き下げるのは不当である。

4月遡及である「年額調整」を行わないこと

「行革」カットによってすでに民間より低い賃金であり、架空の較差解消のために不利益遡及するのはとんでもない。人事委員会も「本県の実情」を考慮せよといっている。

義務教特別手当・給料の調整額を減額しないこと

国の予算は引き下げられたが、県独自に決めることができる。これまで長年賃金抑制を押しつけられていることから、これらについても引き下げをな。

臨時教職員の問題

本来定数は全て正規であるべきで、教職員を採用せずに来た県教委には責任がある。採用を増やす計画を示せ。

正規職員とほとんど変わらない勤務にもかかわらず、賃金が低く抑えられている。臨時講師等の号給が1級81号で頭打ちになっていることに合理的な理由はあるのか。

「空白の1日」のために現場に混乱が生じている。必要な期間にもかかわらず空白の期間を設けることは不適切と人事院も言っている。他県に先がけて、撤廃してもらいたい。

超勤縮減・メンタルヘルス増進の実効ある措置を元々教員には超勤をさせてはならないという観点をしっかり持て。昨年からの県教委の取り組みは、まだ現場で実効性が出ていない。「子どものために」といって、新たな仕事をどんどん増やすことも止めよ。

管理職によるパワハラまがいの実態が多数ある。管理職が成果主義に追い立てられていることもパワハラ増加の原因ではないか。

教職員人事評価育成システムを廃止すること

試行5年で役に立つどころか職員の士気を低下させ、管理職への不信感を増大させ、職員間の同僚性を破壊する方向にしか働いていない。すぐに廃止を要求する。

従業員組合より

我々は教育環境整備に喜びと誇りを持って仕事に取り組んでいる。しかし二重三重の賃金削減で、10年前の年収を下回るようでは希望が持てない。待遇の抜本的改善を求めます。

障教組より

定年延長：今の仕事で働き続けられれば、定年延長になると現職死亡するか、年金がないが退職せざるを得ない状況になる。大きな心配をしている。

臨時教職員：47.8%が臨時教職員の学校、正規職員が3分の1しかいない学部がある。1日も早く改善してほしいという声を受け止めよ。

民間委託：民間委託の入札のしわ寄せが、雇用される人の賃金にいく。安くてもいいという人しか働けないシステムはだめだ。県「行革」の進め方は余りにも荒っぽい。

教育次長からは、県人勸の説明があっただけで具体的な回答はまだありませんでした。高教組は、今後の交渉で、教職員を励ます誠意ある回答を求めていきます。

9大要求署名
全ての職場から県教委へ!!